

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0892200072		
法人名	有限会社 エスエス住建		
事業所名	グループホーム こもれ陽の家		
所在地	茨城県鹿嶋市和941-12		
自己評価作成日	2019年12月14日	評価結果市町村受理日	2020年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku_mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0892200072-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2020年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた場所に立っており、静かな環境の中で生活されている。敷地隣には、自社の畑があり、利用者様と職員と一緒に収穫し、採れたてで新鮮な野菜を食事に提供している。月1回は外食に出かけ、好きな物を食べてたり、お花見等の季節行事や定期的に外出し、活気ある生活になるよう支援している。また、レクリエーションにミュージックケアを取り入れ、心身のリハビリテーションを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人が運営する高齢者施設(ディサービス・グループホーム)が近隣にある、1ユニットの家庭的なホームである。法人代表はホームの近くに住んでおり、野菜(多種類)・椎茸栽培や果樹(梅・栗など)を植えて、利用者に収穫の楽しさを提供している。家庭のように職員がその日に献立を立て、畑の野菜や手作り味噌と有機米を使用し栄養バランスも考慮した食事を提供しており、利用者からも「この食事は美味しい」との話があった。看取りも実施しており、本人や家族の希望に寄り添う、温かみのある看取りをしている。管理者と職員のほとんどは同法人施設より異動してきており、認知症ケアの高い専門性を基に、利用者それぞれの思いを大切にしたい質の高いサービスを提供しており、利用者は楽しみと生きがいのある生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた場所で生活できる事を念頭に置き、理念を玄関に掲示し、職員の意識を高めており、実践に繋げている。	職員が常に理念を確認できるよう、玄関に掲示している。職員も理念である『笑顔でいきいき』を常に念頭に入れ、利用者が生き生きと生活ができることを目指し、利用者が笑顔で過ごせるよう笑顔でケアをされていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩中、ご近所の方々と挨拶を交わし、交流の機会を持っている。地域の行事にも参加している。	散歩時に、ゴミ拾い、空き缶拾いを利用者と一緒にやっている。近所の方が犬の散歩の途中に立ち寄り、キャベツの芯を餌としてあげるのが利用者の楽しみとなっている。花や野菜を頂き、畑の野菜でお返ししている。地域の方より、介護・認知症の相談がある。小学校の運動会に招待される。歌や畑仕事、手芸のボランティアが入っている。ホームの夕涼み会に近所の方を招待している。看護学生の実習をうけいれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時見学・相談を受け付けている。また、地域で行われている研修等にも参加し、地域交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、その時にあったテーマで意見を交換し、その内容をカンファレンスで話し合い、サービスに活かせるようにしている。	運営推進会議は、家族代表、区長、民生委員、行政(介護長寿課)・包括支援センターの職員の参加を得て奇数月の第3金曜日に開催。施設より利用者の様子や運営状況、行事等を報告。夏には熱中症、冬にはインフルエンザに関する報告をする。参加者より、一人暮らし高齢者の相談や看取り等の質問等があり、その時毎にテーマを決め意見交換をする。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自治体主催の研修会に参加し情報を得たり、推進会議で取り組み等を伝えている。	運営推進会議では、ホームの実状や活動状況を丁寧に伝え、市主催の研修会への参加や地域包括支援センターとの交流、生活保護担当との関わりなどで情報交換をし、日頃から協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠していない。玄関から外に出てしまう利用者もいるため、担当を決めて見守りを強化している。	玄関は施錠していない。拘束禁止委員会を3か月に1回、毎回テーマを決めて開催し、自己チェックリストを用いて職員もチェックを行う。身体拘束について学ぶ機会を勉強会を含めて10回程設け、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、全職員が理解したうえでケアに当たっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の勉強会を行い、必要に応じて活用できるような体制をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を設け、納得・理解して頂いている。不安や疑問な点は都度丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所された際には声掛けし、気軽に話せる環境作りを心がけている。家族会では、家族の希望を聞くことができた。	利用者からは日常の問いかけや会話の中から要望を聴き、利用者の思いに添えるように支援をしている。家族からは面会時や家族会の時に意見や要望を聴くようにしている。家族からの要望で、看取りについての説明会を行う。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回カンファレンスを行い、職員の意見を聞く機会をもうけている。その意見や内容をリーダー会議で検討し、運営に反映させている。	管理者は日頃から職員が何でも話せるようにコミュニケーションを図っている他、月1回の職員会議の際に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。昨年の台風では停電になった。利用者の不安回避の為、各居室に懐中電灯を置いた。食欲不振の方は外食に連れて行くとよく食べてくれるとのこと。職員の意見を取り入れ利用者が楽しく1日を過ごせるように工夫するなど、職員の意見や提案を運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は働きやすい環境を作り、従業員の意欲の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への積極的な参加を促し、スキルアップの機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やセミナー等に参加し、他事業所との交流を図っている。そこで得た情報を生かし、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して生活できるよう、本人とのコミュニケーションを密に取り、少しでも不安が取り除けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に話を伺い、困っている事、不安な事に対して助言や支援ができるよう努めている。これまでの生活の大変さを共感し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、コミュニケーションの中から本人の要望を知り、どんな支援が必要なのか検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の方法や野菜の育て方等を教えて頂いている。地域の習わしや生活の知恵を伝えて頂き、生活の中で活かせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族、それぞれの思いを理解し、本人が自分らしく生活できるよう、ご家族にも協力して頂いている。家族も気軽に来所できるような環境づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に電話をかけたり、手紙を出したりして、関係性を保てるよう支援している。	何時でも訪問者を温かく迎える姿勢を大切にしている。また、家族への電話や知人に手紙を出す支援をしている。家族と墓参りや馴染みの店(ラーメン屋等)に行く方がいる。訪問美容師と馴染みの関係となっており、利用者に手芸を教えてくれたり、化粧や着物を着せてくれた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士関わり合いができるよう、職員が間に入り支援しているが、孤立してしまうことがある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も家族との交流がある。来所され、思い出話をされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを大切にし、本人の思いに耳を傾けている。思いに寄り添い安心して生活できる環境づくりをしている。	職員は利用者との日常の関わりや会話から、利用者一人ひとりの要望、希望、意向の把握に努めている。意思表示が困難な利用者の場合は、日々の生活の中での表情や行動から、利用者の思いや意向の把握に努めており、1対1での会話を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に協力して頂き、これまでの暮らしの把握に努め、自分らしい生活が送れるような環境を整えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックを行い、身体の状態を把握している。本人の思いを聞き、塗り絵裁縫など得意な事をされている。レクリエーションも歌など好きな事を取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等でニーズや課題等を話し合い、介護計画を作成している。定期的にモニタリングをしている。	センター方式の活用や日々の記録を基に、利用者の暮らし方の希望を聞き取り、カンファレンスでニーズや課題を話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成をしている。介護支援経過記録には、実施した事や利用者の話した言葉も記入されている。利用者の状態に応じて定期的なカンファレンス以外にも随時話し合いをし、必要に応じて見直しをしている。介護計画書は、必ず面談してサインを頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を細かく記入し、職員間で情報を共有しながら実践にいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に協力して頂き、馴染みの物を持参してもらったり、物品を購入したりして、本人の満足感が得られるよう支援している。買い物や散髪も本人の希望に沿って対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来所は月1回定期的にある。地域住民の方が犬の散歩時立ち寄り下さり、利用者との交流をされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回日時を決め、往診はあるが、ご本人や家族の希望に沿って、従来通りの病院に受診できるよう支援している。体調の変化時や本人の希望時はすぐに受診出来る体制をとっている。	協力病院による月1回の往診で健康管理をし、歯科は往診と受診で対応して、常に必要な医療が受けられている。眼科は系列の看護師が付き添い、医療記録ノートに薬の処方や服薬の仕方などが詳細に記入され、職員は必ず確認(サイン)している。突発受診の時は家族に電話で伝え、受診結果を連絡し、個人別の記録表に記帳している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化時本人の訴えは、その都度看護師に伝え、指示を仰いでいる。必要に応じて受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携は随時取っており、利用者の情報の交換は密にとっている。入退院時には、必要な情報を提供できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にターミナルケアも行っている施設であることを説明している。医療との連携をとりながら、本人や家族の希望に沿った最期を迎えられるような体制をとっている。	契約時に重度化や終末期に係る指針を作成して同意を得ている。協力医と看護師は24時間緊急対応が可能。医師・看護師の指導を受けながら家族に説明し、同意を得ながら対応している。昨年2月に施設として初めて看取りを行った。医師・看護師・家族・職員と何度も話し合いながら、本人の好きな刺身を家族の了解を得て、たたき状にして食べて頂くなど、本人や家族の希望に添った支援を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が急変時や事故発生時のマニュアルを周知しており、発生時には迅速に行動できるよう実践力を身につけ、対応できる体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上避難訓練を実施し利用者職員共に避難方法を確認している。水・食料の備蓄もしており、非常用のトイレも準備している。今年度は台風被害により停電が発生し、隣接の施設から支援して頂いた。	年2回以上、その内1回は消防署立会いで夜間想定を含む訓練を実施している。ハザードマップ上、水害の心配はない。地震は震度5以上の時は近くに在住する職員が施設に集合することになっている。職員への緊急連絡は携帯のラインを利用。水と米・手作り味噌・缶詰などの食糧品を備蓄。畑には常に季節の野菜がある。災害時には代表が施設のすぐそばに住んでおり駆けつける体制となっている。夜間、一人で車イス利用者を安全に避難させる訓練もされている。	運営推進会議時に避難訓練を見て頂き、地域住民との協力体制を構築されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬い、自尊心を傷つけないような声掛けをしている。トイレ介助・入浴時には特にプライバシーに配慮している。	個人情報に関する同意書をとっている。利用者の個性やこだわりを配慮し、ズボンの裾上げやほつれなどを直してくれる裁縫が得意な方、毎日、玄関前の掃除してくれる方、来客にお茶をだす方など、一人ひとりの人格を尊重し、自信と誇りある暮らしをしてほしいとの願いを込めた取り組みをしている。利用者との会話には親しみを込めながらも年長者に対する丁寧な心遣いが感じられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望に合わせて、裁縫・編み物・塗り絵・調理補助・屋外活動等やりたい活動ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者各自のペースに合わせた生活をして頂いている。起床時間や就寝時間も個々のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞いて、起床時・入浴時の洋服を選んで頂いたり、身だしなみも自分ができるよう声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	環境を変えて食事を楽しめるよう、月1回の外食会や少人数での外食もしている。おせち料理や節句の行事食、誕生会は本人の希望を踏まえた献立にしている。片付けもできる範囲でして貰っている。	月1回、全員で外食に出かけている。当日に利用者の希望を取り入れた献立を立てて、早番の方が昼食、遅番の方が夕食を作っている。畑の野菜や頂き物の野菜などを食材として取り入れている。買い物に同行する利用者や下ごしらえを手伝う利用者がある。食事中、ここの食事は美味しいのでここに来て太ったとの話しが利用者からあった。糖尿病の方へも配慮されている。職員も一緒に同じ食卓に並んで食べ、会話しながらの楽しい食事風景が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量を記録し、各々にあった量を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをし、清潔保持・誤嚥予防している。就寝時には義歯をポリデントに浸け洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のリズムに合わせて行っている。間隔が開く様な時は、時間をみて、声をかけるようにしている。	トイレでの排泄を基本としており、利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握する共に、利用者の仕草やサインから察知してさりげなく声かけ誘導し、日中はトイレでの支援を実施している。職員の適切な声かけにより、リハパンだった方が布パンツになった例がある。便秘対策の為、献立に野菜を多く取り入れ、バナナなどをおやつに提供している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事を献立に取り入れ、牛乳やヨーグルト等もおやつに提供している。排便状況も毎朝確認し、把握に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に沿うように努めているが、実行出来ないこともある。	毎日入浴できるよう準備はされているが、1日あたり3～4人の入浴となっている。入りたい時間や好みの湯温等、利用者の希望に合わせ、満足感のある入浴ができるよう支援をしている。ゆず湯・菖蒲湯などの季節湯を楽しむ。感染防止の為、マットは個人のタオルを使用している。入浴は職員と1対1になれる機会でもあり、いろいろな話や希望を聴くことが出来ると職員から話があった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人体温も違う為、寝具もその人に合わせて変えている。照明も希望に合わせて明るさを調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の変更時は、申し送りやカンファレンス等でつたえている。薬剤情報も常に見れるようにしている。症状・本人の変化は、経過記録に残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事を見つけて、その人に合わせた活動をして頂いている。外出や行事等で気分転換している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回は外食を行っており、施設外の方との交流はできている。また、外気浴や散歩等で気分転換をして頂いている。	日常的な散歩で系列施設にあるお地藏さん参りや、畑の野菜を収穫したりして、常に外の空気に触れられるようにしている。初詣・桜・あやめ・菊祭りなど、季節に合わせた外出もある。利用者の希望に添った外食・ドライブ等の外出支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理をされてる方もいる。本人の希望で買い物に出かける事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と電話で話したり、はがきや手紙のやり取りをされている。はがき等は本人に確認し準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テラスには、季節の花を置き楽しめる工夫をしている。天窗もあり、自然の明るさも感じている。隣接の畑で季節の野菜を収穫し、季節を感じてもらおうよう工夫している。	リビングの大きな窓からは隣接する畑と果樹園を眺めることができ、室内は明るい。テラスに出ることができ、地域の人と交流できる場所ともなっている。季節の飾り(水仙)や花が置かれ、季節を感じる共有空間となっている。また、廊下には利用者の様子がわかる生活・行事の写真の(A4サイズ)掲示があり、利用者それぞれが穏やかにゆっくりと過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で活動・過ごして頂けるようにしている。一人一人の希望に沿うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を家族に持参して頂いている。自分の居室が分かるよう、好きな物を名札に付け工夫をしている。	各居室にはクローゼットと洗面台がある。ドアには、利用者が自分の部屋が分かるよう各人の好きな物がフェルトで表現された手作りの名札がかけられていた。テレビ・椅子・テーブル・時計等を置き、家族写真・レクリエーションでの作品等(ぬり絵など)を飾り、1人ひとりが、その人らしく落ち着いた暮らしを送れるよう工夫されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事は自分でして頂けるよう声掛けしている。安全に生活できるよう見守りを強化している。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム こもれ陽の家

目標達成計画

作成日: 2020年04月04日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害時の避難体制において、地域住民との協力体制が築けていない	地域住民との避難訓練の実施	地域住民の方に協力をお願いし、運営推進会議時に避難訓練を実施し、災害時の避難方法を検討する。(新型コロナウイルス感染症対策で外部との交流が出来ない為、目標達成に要する期間が長くなっています)	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。